

平成23年度研究科横断型教育プログラム(Aタイプ)授業科目

担当研究科名	公共政策大学院			横断区分	文理横断型	開講場所	公共第1教室(総合研究2号館2F)		
授業科目名	現代規範理論 Public Philosophy					講義担当者所属・氏名	法学研究科・教授・小野 紀明		
配当学年	専門職、修士、博士後期	単位数	2単位	開講期	前期	曜時限	金4限 (2:45~4:15)	授業形態	講義・演習
〔授業の概要・目的〕									
<p>本授業は、現代社会が直面する諸問題に関して、主として政治理論の領域において提出された多様な解答を考察することを目的とする。今日、象牙の塔に立て籠もり観想的な学問にとどまっていた従来の研究姿勢を反省して、哲学・倫理学・法哲学・公共経済学等の諸領域において、領域横断的にアクチュアルな課題に実践的に対応し、一定の処方箋を提示しようとする規範理論の構築が盛んになりつつある。政治理論も例外ではない。本授業では、このように他の学問領域と交錯しながら活発に展開されている現代政治理論の諸相を多面的に検討する。</p> <p>しかしながら、現代規範理論は、過去の思想的遺産とけっして無縁ではなく、むしろその延長線上に構想されている。また、思想・理論は、現実と切り離されたところで空中楼閣の如くに成立するわけではなく、常に直接的、間接的に当該時代状況と真摯に向き合うなかから生み出される。従って、本授業では現代規範理論と政治思想史の両者の知見を比較対照しながら考察することによって、両者の連続性を明らかにすると同時に、逆に現代社会の特殊性を浮き彫りにすることを目的とする。</p>									
〔研究科横断型教育の概要・目的〕									
<p>本授業科目は公共政策大学院の基本科目であるが、現代社会においては社会正義に関する知識は公共的な職務に就く者のみならず、研究者を含めて理系・文系を問わずあらゆる職務・職業に従事する者にとって不可欠なものになりつつある。この授業では、正義に関する思想・哲学についての素養がなくても理解できる入門的な知識を提供することが目的である。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>具体的には、本授業は以下の3本の柱から構成される。</p> <p>1 功利主義批判の諸相(第1~5回) 現代規範理論の最大のトピックは、従来、リベラリズムの中核をなしてきた功利主義の批判である。ここでは、功利主義を概観した後で、ロールズの『正義論』(1971年)からはじまる多様な功利主義批判について解説する。</p> <p>2 「実践」としての政治(第6~10回) 「実践」とは、アリストテレスにまで遡る重要な概念であるが、今日、哲学、倫理学、政治学等、多様な学問分野で注目されている。ここでは、アリストテレスの「実践」概念を確認した上で、解釈学、ポストモダンの規範理論等において如何にこの概念が重要な位置を占めているのかを解説する。</p> <p>3 公的倫理の独自性(第11~13回) 一般的な倫理からとりわけ公的領域に特有の倫理が切り離された背景には、マキャヴェリ以降、政治的空間が独自の領域として自律化したという事実が帰因している。ここでは、公共的な職務に従事する者に求められる倫理について、ウェーバーの「責任倫理」を手がかりにしながらドストエフスキー、メルヴィルといった文学作品のなかに探る。</p>									
〔履修要件〕									
特になし									
〔成績評価の方法・基準〕									
受講態度も加味しつつ、基本的には学期末のレポートによる。									

[教科書]

特にないが、随時資料を配付する。

[参考書等]

小野紀明『政治理論の現在－思想史と理論のあいだ』（世界思想社、2005年）
川崎修・杉田敦編『現代政治理論』（有斐閣アルマ）

[その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)]

特になし